

研修会報告書

令和2年3月

総務文教常任委員会

1. 日 時

令和2年（2020年）3月27日（金）

午後1時30分～4時

2. 講 師

国立大学法人 兵庫教育大学大学院

学校教育研究科 教授 小西 哲也 先生

3. テーマ

『これからの時代の学校』

4. 内 容

パワーポイント（スライド）を使って、全体を5つに分けて講演

5. 概 要

●これからの時代 Part 1 こども

子どもたちの現状は、他人より少しでも給料の高い仕事につきたい、という気持ちが他の国より低く、あえて苦しい思いをしてまで働く必要はない、でも賃金は高い方がいいと思っているのが最近の若者の特徴。

中・高生も自己肯定感、社会参画に関する意識も米・中・韓より低く、自分自身に満足している度合いも他国よりかなり低い。

これからは、学力・体力・情報収集能力・コミュニケーション力・記憶力等の「認知スキル」と、やり抜く力・思いやり・協調性・自尊心等の非認知スキルを合わせた総合力が必要になってくる。

●これからの時代 Part 2 社会的背景

子どもたちの未来に関する予測では、65%は今存在していない職業に就き、今後10～20年程度で、約47%の仕事が自動化され、週15時間程度働けば済むような時代がくる。そんな予測困難な時代に必要とされる力は、1. 社会とつながり人と関わる力、2. 正解のない社会にできるだけ多くの人々が納得する答えを導き出す力、3. 周囲の人と協力できる力であり、そのためにアクティブラーニングが必要になってくる。

●これからの時代 Part 3 世の中

今の世の中の地域の課題として、地域コミュニティの喪失、つながりを大切にしない風潮があり、全国の首長が地域の担い手づくり（人材育成）をマニフェストに掲げている。これからは新たな社会（Society5.0）超スマート時代に入り、世界の人々や文化を理解し受け入れる学びを広げる「グローバル」と、歴史や伝統・文化を学び、ふるさとを育てる「ローカル」が合わさった「グローカル」の力が必要になってくる。

●これからの時代 Part 4 学校

これからの時代の学校は、学校・保護者・地域住民が連携し協働する、地域のみんなが明日も来たくなる学校であらねばならない。学校を地域住民の集いに、そして学びの場として整備、活用していく必要がある。子どもたちが大人と「交流や協働できる仕組み」「大人がすごい！と認識できる場」「見守られていると実感できる仕組み」「大人の学びや助け合う姿を直視できる仕組み」「自分を認めてくれていると実感できる仕組み」「いろんな場で褒められる仕組み」を作っていく必要がある。

●これからの時代 Part 5 コミュニティ・スクール

コミュニティ・スクールは、「生徒も学校運営に参画する機能」「来校してくださる地域の方々に学校支援をしてもらう機能」「生徒が地域に出かけてボランティア等の地域貢献の活動をする機能」を持った制度であり、これまでの学校評議員制度とは、開かれた学校、地域とともにある学校という意味でも少し違う。ガラス張りの学校から、網戸張りの学校運営へ、学校の声と地域の声が互いにいつでも聞き合える関係でないといけない。たとえば、地域の方々も学ぶことのできる公開講座を開設したり、学校・地域連携カリキュラムを作ったりして、地域一貫教育を目指していくべきである。子どもたちは、コミュニティ・スクールの推進により学力も上がる。空き教室を利用した地域のひろばづくりが大切である。

研修では、「これからの時代の学校」のテーマで、まず、「これからの時代」を「こども」「社会的背景」「世の中」「学校」に分けて、それぞれこれからの時代がどうなるか、スクリーンを通して説明いただいた。

そのなかで、特に気になった点は、日本のこどもは諸外国に比べて自分の参加で社会的現象を変えていこうという気持ちが少なく、かと言って、自分自身で現状に満足していることも少なく、このようなやる気のある子どもが少なくなってきたこと、社会的背景や世の中が、ITが進み様々な職業において自動化(AI)も進み、また、外国人労働者の雇用も増えていく中で、益々若者の就職が困難な時代になり、これからは教育の子どもたちに課すべき課題が重要になってくる、との指摘であった。

その課題のキーワードが、「生きる力」であり、これからの学校が求められているものが、

1. 変化の激しいこれからの社会を生きる力、2. 開かれた学校として地域社会・家庭と連携し、共に子どもを育てる学校運営、3. 学校のスリム化として、国が今後における教育の在り方を答申しているものであり、そのために、コミュニティ・スクールの導入が各地域で必要であるとのことであった。

これまでの学校評議員制度で行ってきた学校運営だけでは、これからの予測不能な社会に子どもたちを教育するには不十分で、学校運営協議会(コミュニティ・スクール)制度に変えることによって、今まで地域に認められなかった子どもたちを、子どもたちが率先して地域を引っばっていく姿に変えた事例を交えながらコミュニティ・スクールの必要性を話された。

現実には、県下の近隣の学校でも導入をし始めており、小西先生のアドバイスをいただきながら、また、昨年夏の鳥取市での行政視察の結果を合わせても、加東市でもコミュニティ・スクールの導入を早急に検討すべきではないかとあらためて感じた。

総務文教常任委員会研修

高瀬 俊介

日 時：令和2年3月27日13：30～

研修内容：これからの時代の学校

講 師：兵庫教育大学大学院 小西哲也教授

〔所感〕 加東市において、ここ10年で小中学校が東条地区1校、社地区1校、滝野地区1校で、小中一貫校3校になります。地域においては、学校がなくなると地域コミュニティが保てない等の意見を耳にします。講演を聞き、これからの学校は“よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る”という目標を学校と社会が共有し、連携・協働しながら新しい時代に求められる資質・能力を子どもたちに育む「社会に開かれた教育課程」の実現を図る（新しい学習指導要領の理念）この理念に共鳴したところです。

東条地区、社地区、滝野地区と多少地域差はあるものの、学校・保護者・地域住民と連携・協働し、地域の皆さんによる、子どもたちが明日も来なくなる学校づくりが必要であると思います。その為にもコミュニティスクールを導入する必要があると感じたところでもあります。もちろん、構成員においても幅広く募り、地域住民が一定の権限と責任をもって学校運営に参加する仕組みによって学校と地域の一体感が持てると思いました。

本日の小西先生の講演を聞き、学校運営の在り方を参考とさせていただきます。

「これからの時代の学校」講演を受けて

藤尾 潔

Society5.0の時代を迎え、新しい時代を生き抜くためには、開かれた学校として地域・社会と連携し共に育てる学校運営が重要であることが理解できた。地域に開かれた学校として、社会の中で生き抜く力を子どもたちが身につけることを一つの目標とすべきであるし、地域が関わることで、現在でも行われている様々な地域と協働で学んでいるプログラムへの学校の負担軽減にもつながると考えられる。また、生涯学習の拠点としての役割を持たせることができる。

「今の学校評議員の制度がうまく回っているから変えない」のではなく、未来志向の形で、小中一貫教育導入を契機にコミュニティスクールに取り組むべきである。

コミュニティスクール研修会所感

古跡 和夫

学校の現状について、出口教育、つまりどこの高校へ行く、どこの大学へ行くということが教育の目的になっており、親は学校任せの状態にあるというのはその通りだと思う。

私は 18 歳から神戸で働き人生の 28 年間ほどは神戸で暮らしてきた。子どもたちもすべて神戸の小学校・中学校で生活してきた。その中で私が学校や教師はあてにならないという考えになる経験をした。ちょうど西区の桜ヶ丘に転校した時に長女の 3 者面接で、同じ郵便局で働いている尊敬する先輩の娘さんはトップの成績なのに、なぜあなたの娘さんはこんな成績なのかと当時の教師から言われたときである。これが原因かどうかはわからないが私は子どもたちに「自分の力で生きていくようになれ」と口癖のように言っていたと、自分は覚えていないが子どもたちからたびたび言われた。受験競争が激しい時で周りの親はどこの学校へ行けばいいのかが話題の中心だった。

少子高齢化、情報化社会、グローバル化の中でどう生き抜いていくのか、地域を丸ごと考えていく時代、多くの子どもたちが加東市で頑張ってもらいたいということにも共感できるが、現実にこの地で働き食べていくとなると簡単ではないとも思う。

先生の数々の具体的な実践の中から大人と子どもの結びつきが、子どもを変え、学校を変え、地域も変えていくことには感動した。

最初に触れられたグローバル化の基本にあるのは新自由主義による国家統治の思想で、イギリスのサッチャー元首相の「社会などというものはない。あるのは家族と国家だけだ」に代表される。つまり人々が結びつき連帯を伴う社会というものが、福祉に対する依存を生み出し、経済成長を停滞させているという認識で、富む者の自由と貧者の自己責任を説いたものです。今日のコロナウイルスの世界的なまん延をもたらしています。

人生 100 年、学校を軸に大人も子どもも共に学び合う社会がコミュニティスクールの具体化で実現できれば、それができるために我々の果たす役割は、考えれば考えるほど難しいことだと思います。

コミュニティ・スクール研修参加報告書

総務文教常任委員会

委員 廣畑 貞一

- 1 日時 令和2年3月27日（金） 午後1時30分から
- 2 場所 第2委員会室
- 3 主催 総務文教常任委員会
- 4 テーマ ～コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）
導入に向けて～
- 5 講師 兵庫教育大学大学院 小西 哲也教授
- 6 内容 【学校が地域住民等と目標やビジョンを共有し、地域と一体となつて子どもたちを育む地域とともにある学校づくりをめざす。】

* 学校と保護者や地域人がともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、一緒に協働しながら子どもたちの豊かな成長を支える。

文部科学省（地教行法第47条の5）に基づいた仕組み。

（1）兵庫教育大学「小西哲也先生著書の感想」について

「奇跡の学校づくり」の一文があります。この一文の背景を考察してみれば、こんな意識のずれが見えてきます。「学校は地域のもの」と学校管理職の意識。「学校は地域のものだ」言えない地域の人々。「学校は自分たちのもの」と意識している県費負担教職員。このズレがあるから「奇跡でもないのに奇跡」と呼ばせた背景が見える。この現象は長年の教育委員会が県費負担教職員への指導の怠慢と言える。

これらの視点からみた場合、この著書を読書後の感想は「あたり前のことをあたり前の実践をとおして、あたり前に執筆され、こと新たに学ぶべきところなし。」

（2）私の考え方

「子どもは保護者（親権者）が管理化する人間」「子どもは地域に所属する人間」「子どもは教育を受ける権利を有する人間」「子どもは基本的人権を保有する人間」等々である。学校施設設備や教育活動実践に係る経費は全て、各市町村の税から捻出された経費である。このことから考えれば、何一つ教師個人の所有物は学校に無い。教師に有るのは子ども

もの教育にかかる専門的知識と専門的指導技術のみである。

これらのことから捉えれば、子どもは教師の占有者でない、教室も教師の占有物でもない。学校運営も教師の占有物ではない。だから、学校組織が硬直化しても分からない。教育実践活動も透明化できない。まさに「裸の王様」状態である。これを打破するためにコミュニティ・スクール制度が導入されようとしていることに、いち早く教育委員会を始め、一人一人の教師が真剣に、しかも前向きに思考の組み換えをする時期が来ている。というのが私の意見である。

(3) 今後の要望について

以下のことを総務文教常任委員会として継続的取り組み要望する。

- ・加東市生まれの、加東市育ちの教員を多く採用すること。
- ・教育界はもうとっくに聖域ではないと徹底した教員指導が必要。
- ・教育委員会の委員で元教師の委員は委員会でもっと専門的視野で専門的意見の意見を望む。
- ・各教師に地域での子どもの活動を知る、アンテナショップ的資質を向上させること。
- ・学校教育と社会教育の融合教育施策を進めるべきである。

上記のことを加東市学校教職員が一丸となって意識改革を図れば、自ずからコミュニティ・スクール導入の一步に近づく。

『コミュニティ・スクールについて 小西教授の研修と著書に学ぶ』

私は、かつて、月刊「社会教育（'07 11月号）」に、中教審専門委員であった吉田博彦氏が書かれた『地域の教育力とは』という記事を読んだことがある。その中で、「近代以前の「社会教育の教育力」とは、「寺子屋」などの教育機関だけでなく、人と人の関係性を基盤とした「空気のように形の見えにくい」教育機能全体を言う。たとえば、お寺の坊さんの説教、村の長老の叱責、親の使いで行った他の家での大人とのやり取りにおける会話訓練、駄菓子屋での買い物における計算、地域の職人の仕事をじっと眺める中での様々な気付き、異年齢の子どもたちの間での遊びなど、「人との関係や生活の中に存在する多様な教育機能も含めてのことである」。こういった、人と人との関係性や生活の営みには、多様で豊かな教育力が存在する。」と書かれていた。

私は、いやいや、私たちの世代でも、ここに書かれている内容を体験して育ちましたよ。この体験から得たものは、私の人としての成長に大きな影響を与えてくれた。現在の子どもたちにも、こう言った環境が必要だと感じたものでした。

今回、小西教授のお話を聞き、また、昨年は鳥取市へ視察に行つて学んだことは、まさにこれのバージョン変更した取り組み「コミュニティ・スクール」であると思う。

「コミュニティ・スクール」は、地域の課題を学校の課題を、学校教育と社会教育（生涯学習）が手を取り合つて推進し、子どもたちの郷土愛とか大人たちの今の暮らしをより豊かに幸せに生きるためにする取り組みである。

青年団・婦人会などこれまで地域コミュニティの中心的役割を果たしてきた社会教育関係団体の活動が、会員の減少などのために休止・解散という状況の中で、コミュニティの崩壊、人間関係の希薄化、核家族化など地域を支えてきた、「人と人のつながり」「大人と子どもの交流」がなくなつてきている。

こういった中で、子どもたちが、「生きる力を育む」ために、「確かな地域愛を育み、地域に根差す人になる」ために、「大人も学ぶ場としての学校」「生徒と交流する多世代交流の学校」「まちづくりの推進力になることを目指す学校」など、様々な、地域の環境や特性に合った『切り口』で、ある時は、お寺のお坊さんとなり、ある時は、地域の職人となり、また、ある時は、村の長老となつて、学校と一体となつて子どもたちを育てる、また、子どもたちと共に学ぶ

「場」をつくることの大切さ・必要性を感じたところである。

時はまさに、小中一貫校がスタートするこの機に、「加東市」においても、現状をしっかりと見つめ、今「何が必要か」をしっかりと把握し、取り組みをスタートさせるべきではないかと感じたところである。

幸い、指導いただける方も兵庫教育大学に居られることでもあり、ご協力をいただきながら前を見て頑張っていたきたい。

講演「これからの時代の学校」に対する所感

加東市議会議員 北原 豊

前回の質問力の研修も良かったですが、今回の「これからの時代の学校」もとても為になる良い研修でした。

なにが良かったかというと、本当のコミュニティ・スクールのすばらしさがわかったことです。それ以外でも講演の中で出てきた非認知スキル（自制心、やり抜く力、自尊心、思いやり、協調性、社交性、信頼、意欲、勤勉性等）が高い子は将来成功する可能性が高いこと。話の中で出てきました「人は人を浴びて人になる」という言葉にはとても深く共感しました。教育で大切なことは、将来社会に出て役に立つ人を育てる！子どもたちが未来を楽しみに感じるのだと感じました。特に Society 5.0（第5世代移動通信システムなどにより無人のバスが走る等）の例、未来が楽しみになるビデオも流れ、とても分かり易かったです。また、これをうまく使えば、新型コロナウイルスを「デジタル監視社会」の先進地、携帯電話のGIS（地理情報システム）機能と監視カメラが約800万台ある韓国のように抑え込めることができます。しかし3年前にできた『加東市電子自治体推進計画 アクションプラン』下記URL参照 https://www.city.kato.lg.jp/material/files/group/79/denshi_jichitai_action_plan.pdf には残念ながら スマートフォンなどを使った電子マネー決済の記載、5G（第5世代移動通信システムで理論値として20Gbps（新聞の活字情報が1秒間に約2万日分＝約55年分送ることができる）とされています。これは4Gの100倍ほどの通信速度です。5Gが実現する自動運転やIoT（身の周りのあらゆるモノがインターネット等につながる）は、農業などに役立つと言われています。多くのセンサーを配置して、農作物の生育状況などをデータ通信で集め分析できるためです。農薬を減らしたり、収穫量を増やしたりできるかもしれません。また自動運転によるドローンや農機具を使えば、人手不足の解消にもつながります。）AI（人工知能）、ビッグデータ、3Dプリンター、防災や測量ドローンなどのIoT、VR（仮想現実）、AR（拡張現実）のかけらも見当たらないのです。2020年から5Gの時代。世の中がシフトアップしたので、加東市電子自治体推進計画 アクションプラン、しいては加東市の総合計画も至急見直すべきだと思います。中でも将来を担う教育関係は、小西哲也先生を座長としてすぐに見直すべきだと思います。

今回講演があったようなコミュニティ・スクールができれば、本当のアクティブラーニングができ、今の加東市の9つの小学校に導入すれば失敗はないと思います。なのに今、加東市にはコミュニティ・スクールが1つもなく、やはり今からの教育は地域から学校や学校という存在が遠くなる小中一貫教育でな

く、コミュニティ・スクールで、そうすれば子どもたちの育ち、市民の育ちがあり、今加東市で問題になっている、いじめ、不登校や学級崩壊もなくなると思います。

今回研修で自分の育ちがありました。地域の未来は、今加東市の政治家にかかっており、中曽根元首相の言葉「政治家の人生は歴史という法廷で裁かれる」今後東条学園が水害や土砂崩れ、ベテラン先生の途中退職、今までのように先生の目が届かないことによる いじめ、学級崩壊、性的被害、東条西小地域の衰退が予想されます。今の歴史ある学校は地域の人が学ぶ学校 生涯学習の場であるということを再認識しました。何度も言いますが今加東市に必要なのは小中一貫のための『かとう学』でなく地域で子どもたちを育て、地域の人が成長するコミュニティ・スクールだと思います。

最後に、この講演を教育長や市長に聞いてもらいたかったです。今回あまりにも講演内容が良かったので、小西哲也先生の本『奇跡の学校:コミュニティ・スクールの可能性』 URL: <https://www.amazon.co.jp/奇跡の学校-コミュニティ・スクールの可能性-小西哲也/dp/4759922911> を購入致しました。この本を読み、本の成功事例からも今加東市の教育に必要なのはコミュニティ・スクール、よってこの部門の専門家である小西哲也先生を加東市の教育参与として是非迎えて欲しいです。今回このような素晴らしい研修を企画して頂いた関係各位に心から感謝いたします。以上がわたしの所感です。